

広島県立松永高等学校

(1) 学校の概要

広島県東部に位置し、生徒数501名（全日制・定時制）、教職員数74名の学校である。キャリア教育の充実に取り組み、平成25年度には「キャリア教育」優良学校文部科学大臣表彰を受賞している。

(2) 教育活動

ア ニつのキーワードを軸にしたカリキュラム・マネジメント

松永高等学校は「かわいがられ、地域貢献できる人材」という目指す生徒像を実現するため、キャリア教育に欠かせない「人格形成」と「学力向上」という二大目標を、カリキュラムを編成・工夫・改善等の視点として、「イ・カリキュラムのPDCA」を行っている。

「人格形成」と「学力向上」という目標は、意味するところは大きいが非常にシンプルであり、キーワードとしても捉えることができるので、教員も学校の進むべき方向性として理解しやすい。学習や諸行事を二つのキーワードで意味付けを行うことで、学校の全ての教育をキャリア教育の視点から評価及び見直しをすることができている。「人格育成」「学力向上」はキーワードとして、学校HPに紹介される行事やニュースの記事に示されている。「この学習や行事が二大目標の達成にどのような意味があるのか」を教員、保護者、生徒、地域の方々が全員認識できるようになっている。



図1 学校のHPに紹介された記事

イ「人格形成」に向けた取組

(7) 基本事項の徹底

目指す生徒像の実現のため、三つのステップ「ルールを守る」「マナーを守る」「日本の心を守る」を掲げ、生活上の基礎事項の徹底に取り組んでいる。特に、「ルールを守る」については、「あ・じ・み（あ：挨拶、じ：時間、み：身だしなみ）」運動の徹底を行っている。このような当たり前のことをやり抜くことで、生活指導上の課題が激減し、安心・安全な学びの場を実現することができている。

(4) インターンシップの実施

インターンシップも松永高等学校の生徒の人格形成に大いに関わっている。インターンシップは第2年次の総合的な学習の時間「松高セミナーⅠ」で行われ、毎年約160名の生徒が60～70の企業において3日間の就業体験を行う。これだけ多数の就業体験先が用意できるのは、教員の体験先開拓のための熱心な努力はもちろんのこと、「松永親交会」（商工会松永支部）をはじめ地域の協力によるものである。就業体験においては、職場の方から職業人としての厳しい言葉に加え、温かい言葉や励ましの言葉をかけられることで、生徒は望ましい勤労観・職業観をもつとともに、自分たちが地域の方々に支えられているという意識をもつことができている。



図2 就業体験の様子

(4) ボランティア活動・部活動等の充実

ボランティア活動、部活動等も人格形成の一翼を担っている。ボランティア活動は月1回、生徒会執行部を中心に生徒希望者で実施され、校内外清掃活動などに多くの生徒が参加し、社会貢献の精神を高めている。部活動等では、生徒に校外や地域での活動、各種コンクールへの参加を積極的に促している。最近の校外活動では、地域の複合商業施設での

児童文学作品の読み聞かせ、慈善団体のチャリティーバザーや地域行事の手伝い等を行った。コンクールでは、年金機構エッセイ第5位入賞、ビブリオバトル中国大会第3位入賞、クラウンレコード演歌大会全国入賞、拓殖大学論文コンテスト第3位入賞等がある。社会貢献活動においてその働きが認められたり、入賞という形で長所や努力が認められることで、生徒には自信や自分の長所を更に伸ばしていこうという態度が培われている。

ウ 「学力向上」に向けた取組

松永高等学校では学力向上に向け、実施科目の見直しを行った。特徴的なものが二つあり、その一つが第1年次に設定している学校設定科目「体験」（2単位）である。この科目では、生徒が普段の授業では味わえない体験を通じて、高校での学習に対して興味をもったり、「できる喜び」「わかる喜び」「経験する喜び」などの学習を通じた喜びを得ることをねらいとしている。生徒は複数の講座の中から、前期1講座、後期1講座を履修するようになっている。この科目についての生徒の満足度も高く、成功体験による自己肯定感の高まりから、他の授業への主体的な態度の育成に役立っている。

【平成27年度に設定された講座】

- ・KENDAMA ・まんだら塗り絵
- ・ルービックキューブで右脳を鍛えよう
- ・ものづくりをしよう ・私の町のCMを作ろう
- ・瞑想とダンス ・器械体操の体験
- ・ハンドボールってなんだ

二つ目は、平成25年度から第1年次に設定された、学校設定科目「ステップアップ国語」「ステップアップ数学」「ステップアップ英語」（各2単位）である。この科目は義務教育段階の学習内容の学び直しを行い、その確実な定着を図ることを目的としている。平成25年度入学生からは、第1年次に「コミュニケーション英語基礎」（2単位）を設置し、学び直しの更なる充実を図っている。

これらのカリキュラムの見直しによる全体的な学力向上の取組とともに、希望進路に対応した学力向上の取組もあり、大学進学を目指した生徒を対象に実施する放課後の補習指導「チャレンジ・サークル」や国公立大学希望者のための個人指導を行う「Kプロ」といった取組を行っている。

「人格形成」と「学力向上」を通じたキャリア

教育充実の結果、卒業時の進路未決定者も毎年非常に少なく、平成25年の卒業生から公立大学や国立大学等への進学者も出てくるようになり、その成果が出つつある。

また、地域からの信頼や中学生からの関心も高まり、入学者選抜試験（Ⅰ）・（Ⅱ）の志願倍率は、平成25年度に飛躍的な伸びを見せ、入学生全体に占める地元中学生の割合も年々高まっている。

(3) 経営活動

上記の教育活動は、地域との人材育成の理念の共有（「カ．家庭・地域社会等」）、教員の協働性（「エ．学校文化」）に支えられている。

ア 地域との協働（人材育成の理念の共有）

高等学校学習指導要領（平成21年）にあるとおり、キャリア教育を推進するためには、地域や産業界等の人々の協力を積極的に得よう配慮することが必要となる⁽¹⁴⁾。インターンシップの例に見られるように、松永高等学校はそのための地域からの十分な協力を得られている学校である。この背景には、次の2点が考えられる。

- ①松永地域が「学校・地域・社会の大人が次世代を育成する使命がある」という基本理念を他の学校、関係機関を含め地域で共有できている。
- ②生徒が地域の清掃活動や他の奉仕活動等といった社会貢献の機会を積極的に設け、学校の人材育成の成果を生徒の姿を通して地域に示している。

②のとおり、人材育成の成果を生徒の姿として地域に積極的に示すことで、地域からの信頼を高め、更なる協力を得るという好循環を生み出している。

イ 組織文化の醸成（「人格形成」と「学力向上」を支える教員の協働）

各年次の担任は、その年次のホームルーム教室がある階の「年次室」に常駐し、日常的に生徒に関する情報交換を行っている。また、ホームルーム教室から近いため、年次の生徒に声をかけやすく、生徒間のトラブル等の緊急時には複数名ですぐに対応できるようになっている。このような体制での教員間の協働が生徒指導面での大きな改善につながっている。

協働性について、山垣内俊行校長は「仕事を楽しめてこそその協働性」と考え、授業改善や校務については先生方の専門性と独自性にできるだけ任せるようにしている。また、各分掌及び年次からの意見に素早く対応し、物事が迅速に行われる体制づくりに努めている。このような校長の雰囲気づくりに教員の協働性が支えられている。